

ご協力ありがとうございます！

【3月の寄付品】みはる荘、ひよどり精肉店、古賀知明、馬場雄治
（株）アドバンス、坂本正、薦田稔、浦上千英子、（有）トリニティ、中村恭子
ハートフィールド坂本、重松重興、堤慎一郎、（株）クリスター、樋口知佐子
（株）カクマル 【3月の新入会】田代 恵子

大宰府と工場見学 3月2日（木）、帰国前の恒例イベントである太宰府の見学と、今回は鳥栖市にある岩田産業（オイスカ会員企業）の精米工場の見学にも行ってきました。岩田産業の精米工場見学は、毎年センター主催の米作りイベントに参加していただいている社員の方からの招待で、その施設が昨年12月に鳥栖市に新設されたということで、最先端の精米施設を見学させていただく事が出来ました。太宰府見学では、九州国立博物館の見学を、ボランティアに毎週見える堤さんのガイドで館内をまわり、太宰府天満宮の見学ではあいにく本殿が修復工事で見学出来ませんでしたが、満開に咲き誇った梅の木々がとてもきれいで、みんなでたくさん写真を撮って帰ってきました。（豊田）



初フルマラソン完走しました！

2月26日に大阪マラソンでチャリティランナーとしてフルマラソンに挑戦しました。2022年の大会に出るはずでしたが、中止となり2023年に参加することになりました。

当日は走り始めて7kmあたりで足が痛くなり、10km所ある閑門の制限時間を5分～10分前に通過するほどのペースで走りました。走ってる間はとにかく足が痛かったです。完走できないかもしれないと思う瞬間も多々ありましたが、いろいろな人がかけてくれた応援の言葉を思い出してひたすら走りました。6時間20分とかなり時間がかかりましたが、無事に完走できました。

チャリティ募金にご協力して下さった方々、応援してくださった方々ありがとうございました。（園田）



4月の予定

- 8日 体験農園酵素づくり
15日 生松台ふれあい市
17日 室町ケミカル社員研修(20日まで)
21日 西日本支部幹事会
22日 基礎研修修了式

体験農園だより

3月より令和4年度春夏作前期がスタートしました。今期も昨年と同じく40組でスタートとなりました。初参加のグループは2組だったので、ほとんどが昨年度より継続いただいているベテランの方々となります。昨年はよくできた野菜もあった一方で、人気の高いキュウリやスイカなどは少雨の影響による病害虫被害あまりうまくできませんでした。今年は豊作となるように皆様と一緒に手入れを行っていけると思います。（飯川）

農場の研修風景 今年の桜は例年よりだいぶ早く開花し、3月30日の時点ではセンターの桜は散り始めています。そして、周囲の桜がすべて散り終えた後、今度は脇山地区の至るところの沿道に、芝桜のピンクや白い花があでやかに咲き誇ります。この芝桜の花は、各町内会の方が日曜日の出事作業などで管理をしながら育てたもので、町内のみなさんの気持ちのこもった優しい花がきれいに咲きます。4月に入ると研修農場は、夏野菜の植え付け作業の準備で忙しくなりますが、センターのスタッフや研修生は毎日きれいな花を見ながら農作業をがんばっています。（豊田）



脇山研修生歓送迎会

3月11日に脇山校区による研修生歓送迎会がセンターで行われました。先輩研修生のアクションプランの発表、新研修生の自己紹介をした後にグループに分かれて地域の皆さんと交流しました。またフランダスの披露、OB研修生リーさんによる居合道の披露、ミニゲーム等をして大盛り上がりでした！（園田）



※5月3日博多どんたく

早良区西新演舞台に
研修生が出演します！

まるごと!西日本



@OISCA_NTC



facebook

日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！

発行：(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部
福岡市早良区小笠木 678-1
TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322
E-mail: oiscantc@oisca.org 検索 オイスカ西日本

2023年4月号



令和4年度 オイスカ海外研修生研修修了式

3月18日、昨年4月に来日し西日本研修センターにて持続可能な農業、日本語、日本文化等、多くの事を学んだ研修生、7か国7名の研修修了式を執り行いました。新型コロナウイルスの影響も多少おさまる中、3年ぶりの懇親会を含めての開催となりました。研修生にとってのこの1年、多くの体験をしました。多くの方々との交流の中、みんなが日本を好きになり、支援していただいた方々への恩を胸に抱き、感動の修了式となりました。式典では、中野理事長をはじめ、西日本支部・瓜生会長よりご参加の皆様への感謝の挨拶及び研修生への労いの言葉をいただきました。ご来賓として、福岡県知事、福岡市長、福岡県議会議長の祝辞をそれぞれ代読頂きました。今年度の研修生にとって1年間の研修成果を発表する場もあり、それぞれが帰国後の活動を元気に発表しました。帰国後が彼らのスタートです。苦労もあるかと思いますが、日本からそれぞれの研修生にエールを送りたいと思います。1年間ご支援いただきました皆様、心より感謝申し上げます。（廣瀬）



←研修生
謝辞
ウインさん
(ミャンマー)

鬼木さんありがとうございました！

2014年からボランティアでお手伝いをいたしました鬼木大明神こと、鬼木幸秀さんが3月末をもって退任されました。安心安全な農業にひかれ、オイスカにお手伝いに来ていただきました。お手伝いというより、早朝から夕方までフル対応。感謝です。今後は奥様と仲良く過ごされること、いつまでも元気で賑やかにいてくださいね。（廣瀬）



鬼木さんは中央

鹿児島 桜島植林地管理 コロナの影響で2年間管理、メンテナンスが出来なかった、桜島の植林地の整備に3月7日に帰国予定の研修生全員で作業を行いました。当日は素晴らしい天候に恵まれ、桜島中腹の現場に到着した瞬間、見事に噴火してくれました。もうもうと立ち上る噴煙に研修生達も唖然とし、自然の力を間近に見ることができました。植林地は下草刈りと蔓切がメインですが、草を刈るたび、蔓を切るたびに積もった灰を頭からかぶり、作業が終わったらみんな真っ黒で、お互い見合させて大笑いしました。帰りは地元の温泉でスッキリとして、無事福岡まで戻りました。最初に鹿児島県推進協議会の吉田会長にもお会いでき、長旅ではありましたが、思い出に残る研修となりました。新研修生もぜひ体験させますので反応が楽しみです。（廣瀬）



日本語のようす

8カ国1地域9名の農業研修生が入所し、3月1日に、スタッフとの対面式、オリエンテーションが行われ、今年も2つの日本語クラスができました。

Aクラス(東ティモール、ミャンマー、インドネシア、マレーシア 計4名) 国でみんなの日本語を学習済みの研修生と、第13課まで学習した研修生との混合クラスですが、みんな理解力があり、意欲的で、授業の進行もスムーズです。定着具合を確認するためにテストをしたところ、結果に満足しなかったアグスさん(東ティモール)は「次のテストはいつですか。」と尋ねてきました。4人で刺激しあって、学習意欲を維持していくようにしたいと思います。

Bクラス(インド、チベット、モンゴル、フィジー、カンボジア 計5名) ひらがな、カタカナの学習から始めました。理解力もあり、日常生活でも語彙をどんどん増やしているおしゃべり好きなカルマさん(チベット)とドゥリシャさん(インド)、理解するまでに時間がかかり、語彙がなかなか覚えられないジョーさん(フィジー)とエムナットさん(カンボジア)。その間でがんばっているテケシーさん(モンゴル)。Bクラス内で差があるので、できない研修生が理解でき、できる研修生も満足できる授業にするのが、難しいです。苦戦しているクラスですが、新しいことばを使って話そうと意欲的であったり、みんなで助け合っているクラスです。

フィリピン人技能実習生 2名のクラスでも基礎講習が続いています。日本語授業の間にフォークリフトの講習があり、それをきっかけに日本語の学習意欲にも火が付けばいいなと思います。4月12日の配属まで残りわずかですが、配属先での実習がスムーズに行えるように、指導していきます。満開の桜に囲まれて、がんばれ！研修生！実習生！(立石考子)

アクションプラン発表会

3月14日(火)、修了式を前に控えた令和4年度の研修生は、研修最後の総仕上げでもあるアクションプランの発表会を実施しました。当日は外部からも5名ほど参加していただき、研修生から一人20分程度の時間を使って帰国後の活動計画について、詳しく発表をしていただきました。今回発表した7名のうち4名はオイスカの現地研修センターのスタッフとして活躍する予定で、その他の研修生についても、ふるさとで農業経営や指導、CFPの活動など、日本での経験を活かして積極的に活動を進めていきたいと、意気込みを語ってくれました。心配や不安もたくさんあるでしょうが、今後の彼らの活躍を期待したいと思います。(豊田)

八江農芸育種農場視察

3月15日(水)、長崎県諫早市にある八江農芸株式会社の育種農場の見学に行ってきました。八江農芸様には、今回の研修生も短期外部研修で5名がお世話になりましたが、初めて訪問する研修生も何名かおりましたので、農場全体の概要の説明から、農場を見学しながらチンゲンサイやキャベツの交配の方法について勉強することが出来ました。種を探る作業はとても難しいですが、丁寧に説明をしていただいたので、研修生も理解を深めることができました。育種農場の見学後は、諫早の干拓事業の広大な農場を案内していただき、諫早市の干拓の歴史などについて話を聞くことが出来ました。(豊田)



オイスカ会員様紹介

[入会のきっかけ]

オイスカの理念に共感し、入会いたしました。令和3年7月には永年会員(20年)の表彰をいただきました。

[会社紹介] 弊社は、菓子問屋として1903年の創業以来、多くの方々のご支援を賜り、おかげさまで、今年で120周年を迎えることができました。現在では菓子・冷菓・冷凍食品の製造・卸売業を軸に、スポーツ事業・パン製造業・介護事業等をグループ内に擁し、各事業の相乗効果の発揮を図ることにより市民の生活にうるおいをご提供する生活支援企業グループとしての成長に挑戦しております。今後もこれまで同様、「真面目な製造、真面目な販売、真面目な経営」の社是を遵守しつつ、製造・物流技術の更なる向上に努め、より多くのお客様に食と健康のご提供を通じた満足をお届けしたいと考えております。

セイカ食品株式会社について

所在地:鹿児島市西別府町3200-7

電話:099-284-8111(代表)

代表:代表取締役会長 玉川哲生

:代表取締役社長 玉川浩一郎

創業:1903年(明治36年)

設立:1919年(大正8年)



<https://www.seikafoods.jp/>



OB研修生の紹介

今回紹介するOB研修生は、ミャンマーの一さんです。一さんは2015年の研修生で、何でも一生懸命に取り組む頑張り屋さんで、みんなからの信頼も厚くとても頼りになる存在でした。

◆国に帰ってから今まで何をしていましたか？ 日本から帰ってから、私はパコックセンターで1年間、日本の外務省の支援で行っていた「農家への養豚支援」のプロジェクトの担当をしました。2016年から今まで、チャウマジセンターで会計と事務所の担当をしています。今の仕事は会計だけでなく、センター全体のマネジメントをしています。現在はミャンマ一政府の問題で研修生の受け入れは実施出来ておりませんが、センターのスタッフは皆で協力しながらセンターの仕事をがんばって、農家たちにボカシの作り方や自然農薬の作り方を教えたりしています。CFPの活動も6つの学校で行っており、木はよく育っています。ホームガーデンプロジェクトも野菜がよく育ってボカシの作り方も教えることが出来てよかったです。

◆家族の紹介 私の家族はオイスカセンターの近くのパコックの村に住んでいます。私はまだ結婚していませんよ。

◆日本での思い出は？ いろいろな国の人と友達になって、良いことも悪いこともたくさん勉強できました。そして、有機栽培の勉強や交流会など、何でも面白くてたくさん勉強になりました。日本の好きな食べ物は梅干しとカレーです。

◆これからの夢は？ オイスカセンターで若い農家の人たちを育てて、ミャンマーの有機農業の普及、発展のためにがんばりたいです。今年結婚することも私の夢です。

◆オイスカスタッフとサポーターに一言 日本でいろいろとお世話になって、家族のように優しくしていただき、良い勉強がたくさんできました。オイスカメンバーの皆さんもいつも私たちをサポートしていただきて有難うございました。これからもミャンマーの若い人たちに勉強する機会をいただきますよう宜しくお願いします。私も日本で学んだことを忘れずに、これからもがんばります。今、私の国は大変ですが、よくなったらまた遊びに来てください。皆さんに会いたいです。先生方やサポーターの皆さんのご健康をお祈りいたします。

